

ショウ サイ コ トウ
〔東洋〕小柴胡湯エキス細粒

【警告】

1. 本剤の投与により、間質性肺炎が起こり、早期に適切な処置を行わない場合、死亡等の重篤な転帰に至ることがあるので、患者の状態を十分観察し、発熱、咳嗽、呼吸困難、肺音の異常（捻髪音）、胸部X線異常等があらわれた場合には、ただちに本剤の投与を中止すること。
2. 発熱、咳嗽、呼吸困難等があらわれた場合には、本剤の服用を中止し、ただちに連絡するよう患者に対し注意を行うこと。（「重大な副作用」の項参照）

【禁忌】(次の患者には投与しないこと)

1. インターフェロン製剤を投与中の患者（「相互作用」の項参照）
2. 肝硬変、肝癌の患者（間質性肺炎が起こり、死亡等の重篤な転帰に至ることがある。）
3. 慢性肝炎における肝機能障害で血小板数 10 万/ mm^3 以下の患者（肝硬変が疑われる。）

【組成】

本剤は、小柴胡湯の水製エキスに賦形剤（トウモロコシデンプン）を加えて製したものである。

本剤7.5g中

日局サイコ・・・6.0g 日局ニンジン・・・3.0g
日局ハンゲ・・・5.0g 日局カンゾウ・・・2.0g
日局オウゴン・・・3.0g 生ショウキョウ・・・4.0g
日局タイソウ・・・3.0g

上記の混合生薬より抽出した小柴胡湯の水製エキス5.0gを含有する。

【性状】

本品は、褐色の細粒で特異なおいと味を有する。（天然原料を使用するため、色調、味、においがロットにより若干異なることがあります。）

医薬品識別コード：TY-064

*【効能・効果】

1. 体力中等度で上腹部がはって苦しく、舌苔を生じ、口中不快、食欲不振、時により微熱、悪心などのあるものの次の諸症：
諸種の急性熱性病、肺炎、気管支炎、気管支喘息、感冒、リンパ腺炎、慢性胃腸障害、産後回復不全
2. 慢性肝炎における肝機能障害の改善

【用法・用量】

通常 大人 1日 3回 1回 2.5g(1包)を空腹時経口投与
年齢症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)
1) 著しく体力の衰えている患者[副作用があらわれやすくなり、その症状が増強されるおそれがある。]
2) 慢性肝炎における肝機能障害で血小板数 15 万/ mm^3 以下の患者[肝硬変に移行している可能性がある。]

2. 重要な基本的注意

- 1) 慢性肝炎における肝機能障害で本剤を投与中は、血小板数の変化に注意し、血小板数の減少が認められた場合には、投与を中止すること。
- 2) 本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。
- 3) 本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。
- 4) 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

3. 相互作用

1) 併用禁忌(併用しないこと)

| 薬剤名等 | 臨床症状・措置方法 | 機序・危険因子 |
|---|---------------------------------|---------|
| インターフェロン製剤 インターフェロン- α インターフェロン- β | 間質性肺炎があらわれることがある。（「重大な副作用」の項参照） | 機序は不明 |

2) 併用注意(併用に注意すること)

| 薬剤名等 | 臨床症状・措置方法 | 機序・危険因子 |
|---|---|---|
| (1)カンゾウ含有製剤 (2)グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤 (3)ループ系利尿剤 フロセミド エタクリン酸 (4)チアジド系利尿剤 トリクロルメチアジド | 偽アルドステロン症があらわれやすくなる。また、低カリウム血症の結果として、ミオパチーがあらわれやすくなる。（「重大な副作用」の項参照） | グリチルリチン酸及び利尿剤は、尿細管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。 |

4. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

1) 重大な副作用

- ① 間質性肺炎：発熱、咳嗽、呼吸困難、肺音の異常（捻髪音）等があらわれた場合には、本剤の投与を中止し、速やかに胸部 X 線等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。また、発熱、咳嗽、呼吸困難等があらわれた場合には、本剤の服用を中止し、ただちに連絡するよう患者に対し注意を行うこと。
- ② 偽アルドステロン症：低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察（血清カリウム値の測定など）を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。
- ③ ミオパチー：低カリウム血症の結果として、ミオパチー、横紋筋融解症があらわれることがあるので、脱力感、筋力低下、筋肉痛、四肢痙攣・麻痺、CK(CPK)上昇、血中及び尿中のミオグロビン上昇等が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。
- ④ 肝機能障害、黄疸：AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、 γ -GTP の著しい上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

2) その他の副作用

| | 頻度不明 |
|------------------------|----------------------------|
| 過敏症 <small>注1)</small> | 発疹、掻痒、蕁麻疹等 |
| 消化器 | 食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹痛、下痢、便秘等 |
| 泌尿器 <small>注2)</small> | 頻尿、排尿痛、血尿、残尿感、膀胱炎等 |

注1) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

注2) このような症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

5. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

7. 小児等への投与

小児等に対する安全性は確立していない。[使用経験が少ない]

【取扱い上の注意】

薬の品質を保つため、直射日光を避け、できるだけ湿気の少ない涼しいところに保管してください。

【包装】

500g, 2.5g×252包(分包品)

【参考】

原典: 傷寒論

参考文献: 「漢方処方応用の実際」山田光胤著

【文献請求先】

製造販売元 株式会社 東洋薬行

〒113-0033 東京都文京区本郷6-19-7

TEL 03-3813-2263 FAX 03-3813-0202

株式会社東洋薬行

東京都文京区本郷6-19-7
